

書評



薬の副作用のエビデンス リソース

評者 徳田安春

臨床研修病院群プロジェクト群星沖縄
臨床研修センター長

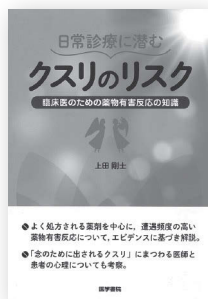
医療現場で、薬の副作用ケースが増えてい
ファーマシー、新薬開発、ガイドラインによ
医師には、副作用を早期に発見し対処する責任があるとと言えます。そのためには、処方する医師には「特別」な学習が必要
です。なぜ特別かという、悲しいかな、薬の副作用についての臨床的に役立つ実践的な知識は、薬のパンフレットや
添付文書を熟読しても習得できないからです。

患者さんにも自分にも、つらい思いをさせないために

本書は、そのような実践的な知識をコンパクトにまとめてエビデンスを提供してくれる新しいタイプのリソースです。
著者は「総合診療エビデンス界のプリンス」上田剛士先生（洛和会丸太町病院 救急・総合診療科）。本書では、得意技であ
る円グラフを駆使して、徹底的な科学的エビデンスを提供してくれています。

まずは、総論からスタート。いかに薬剤の副作用が多いかがわかります。その背景因子についてのエビデンスが記載さ
れています。そして各論は、コモンな薬剤の副作用について、薬剤と代表的な症候の両面からの切り口で紹介されていま
す。図表も豊富で、各章の最後には箇条書きでまとめがついており、記憶にも残りやすいように工夫されています。

自分が処方した薬で副作用を起こしたケースで、つらい思いをした医師は多いと思います。本書を読んだ医師が実臨床
でこれを活かすことにより、副作用ケースの早期発見と早期対応のレベルをアップし、日本の医療の質がさらによくな
ると確信します。



日常診療に潜む クスリリスク

臨床医のための
薬物有害反応の知識

上田剛士＝著

定価：本体 2,800 円＋税／A5・164 頁／医学書院／2017
[ISBN978-4-260-03016-8]

まず。高齢化、マルチモビディティ、ポリ
る推奨などが要因です。それでも、処方した